

■ ■ ■ 編 集 後 記 ■ ■ ■

少し前になりますが、話題の『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』（通称「もしドラ」）を読みました。「もしドラ」については、本号にも関連記事がありますので是非ご覧頂ければと思います。

「もしドラ」の中でとても印象に残っているシーンがあります。それは、ページがバラバラになるほど何度も読み込んだ「マネジメント」を主人公が開くシーンです。昨今では、一冊の書物を深く読むことより、多読・速読を勧めたり、すぐに分かる／使えることが強調されることが多いように思います。私自身もそこまで書物を読み込んだことはありませんし、斜め読み・飛ばし読みで十分な本が少なくないのも事実ですが、近頃の風潮に対するアンチテーゼなのかもしれないと感じました。

もちろん、昔と今では我々を取り巻く環境やその変化のスピードが異なるので、単純に昔のやり方がいいとは言えないのは読書に限らないことだと思います。しかし、物事には簡単には変化しない芯みたいなものがあり、それらを会得するためには深く（「もしドラ」風と言うなら「真摯に」）向きあう必要があるのもまた事実なのだろうと思います。

昔から、「学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆うし」といいます。「もしドラ」で描かれているのはマネジメントの世界ですが、抽象的な理論を現実の事象に適用したり、逆に現象からその背後にある普遍的なことを考察するというサイクルは、技術の領域でも日常的に求められ、また行われていることだと思います。本号にも、会員をはじめとした方々のさまざまな活動や思いが紹介されています。本誌が、読者の皆様にとって机上と現実を結ぶ架け橋の一つになれば幸いです。